

MITSUBISHI 三菱電機パッケージエアコン

# 冷媒配管 電気配線

## 工事 説明書

販売店・工事店さま用

# 冷媒R410A対応

PK-RP40~50KA8

※ 室外ユニット形名違いで内容が異なる場合がありますので、「冷媒配管」「電気配線工事」の項は室外ユニット側の据付工事説明書も参照願います。  
※ 既設配管を流用する場合の注意事項等は、室外ユニットの据付工事説明書を参照してください。

## 1. 同時ツインシステム 冷媒配管制限

■ 室外ユニットにより、冷媒配管長さ・バンド数・室内ユニットの高低差の制限が異なりますのでご注意ください。

〈スリムZR・スリムER・冷房専用シリーズの場合〉

室外ユニット	許容配管長合計 A+B+C	A+B又は A+C	チャージレス配管長 A+B+C	B-C	バンド数	室内外ユニット の高低差H
PUZ-ZRP80形・PUZ-ERP80形 PU-CRP80形	50m以下	50m以下	30m以下	8m以下	15以内	30m以下
PUZ-ZRP112~ZRP160形 PUZ-ERP112~ERP160形 PU-CRP112~CRP160形	75m以下 (注1)	75m以下 (注1)				
PUZ-HRP80~HRP160形 PUZ-ERP224形 PUZ-ERP280形 PUZ-ZRP224形 PUZ-ZRP280形	100m以下 (注2) 120m以下 (注2)	100m以下 (注2)				

〈スリムSRの場合〉

室外ユニット	許容配管長合計 A+B+C	A+B又は A+C	チャージレス配管長 A+B+C	B-C	バンド数	室内外ユニット の高低差H
PUZ-SRP80形 PUZ-SRP112~SRP160形	30m以下 50m以下	30m以下 50m以下	20m以下	8m以下	15以内	30m以下

(注1) 既設配管を洗浄レスで利用する場合には50m以下。(注2) 既設配管を洗浄レスで利用する場合には70m以下。

※ 冷媒追加チャージは、室外ユニット内部の低圧側配管に接続されたチェックバルブを使用してください。

### 1. 配管長さに応じて下記冷媒量を追加チャージしてください。

〈スリムZR・スリムERの場合〉

室外ユニット	A+B+C 冷媒追加チャージ量 (kg)							
	30m以下	31~40m以下	41~50m以下	51~60m以下	61~70m以下	71~75m以下	76~100m以下	101~120m以下
PUZ-ZRP80形・PUZ-ERP80形 PUZ-ZRP112~ZRP160形 PUZ-ERP112~ERP160形 PUZ-HRP80~HRP160形	追加充填 不要	0.6kg	1.2kg	1.8kg	2.4kg			
PUZ-ERP224形 PUZ-ERP280形 PUZ-ZRP224形 PUZ-ZRP280形		0.9kg 1.1kg 0.9kg 1.1kg	1.8kg 2.2kg 1.8kg 2.2kg	2.7kg 3.3kg 2.7kg 3.3kg	3.6kg 4.4kg 3.6kg 4.4kg	追加充填量を 下式にて算出		

〈スリムSRの場合〉

室外ユニット	A+B+C 冷媒追加チャージ量 (kg)							
	20m以下	21~30m以下	31~40m以下	41~50m以下	51~60m以下	61~70m以下	71~75m以下	76~120m以下
PUZ-SRP80形 PUZ-SRP112~SRP160形	追加充填 不要	0.6kg	1.2kg	1.8kg	追加充填量を 下式にて算出			

〈冷房専用シリーズの場合〉

室外ユニット	A+B+C 冷媒追加チャージ量 (kg)					
	30m以下	31~40m以下	41~50m以下	51~60m以下	61~70m以下	71~75m以下
PU-CRP80形 PU-CRP112~CRP160形	追加充填 不要	0.3kg	0.6kg	0.9kg	1.2kg	

室外ユニットがスリムZRまたはスリムERの224形・280形で総配管長が70mを超える場合は、以下の要領で追加充填量を算出してください。但し算出した追加充填量が「70m時追加チャージ量」より少なくなる場合は、「70m時追加チャージ量」を追加充填してください。

$$\begin{aligned}
 \text{追加充填量 (kg)} &= \text{主管: 液管サイズ } \phi 12.7 \text{ の総長} \times 0.11 \\
 &+ \text{主管: 液管サイズ } \phi 9.52 \text{ の総長} \times 0.09 \text{ (ガス管 } \phi 25.4) \\
 &+ \text{枝管: 液管サイズ } \phi 9.52 \text{ の総長} \times 0.06 \text{ (ガス管 } \phi 15.88) \\
 &+ \text{枝管: 液管サイズ } \phi 6.35 \text{ の総長} \times 0.02 \\
 &- 3.6 \text{ (kg)}
 \end{aligned}$$

〈例〉 室外ユニット : 224形 主管 (液管) A :  $\phi 9.52 \dots 30\text{m}$   
 室内ユニット1: 112形 枝管 (液管) B :  $\phi 9.52 \dots 30\text{m}$   
 室内ユニット2: 112形 枝管 (液管) C :  $\phi 9.52 \dots 25\text{m}$   
 主管 (液管)  $\phi 9.52$  は A=30m 枝管 (液管)  $\phi 9.52$  は B+C=55m

従って追加充填量 =  $30 \times 0.09 + 55 \times 0.06 - 3.6 = 2.4$  (kg) 但し「70m時追加チャージ量」より少ないため、追加充填量 = 3.6 (kg)

70m時追加チャージ量	PUZ-ZRP224形・PUZ-ERP224形	3.6kg
	PUZ-ZRP280形・PUZ-ERP280形	4.4kg

### 2. バンド数は、〈A+B〉、〈A+C〉の間で8ヶ所以内、総数で15ヶ所以内としてください。

### 3. 室内外ユニットの高低差は、室内ユニットが室外ユニットに対し上でも下でも同じです。

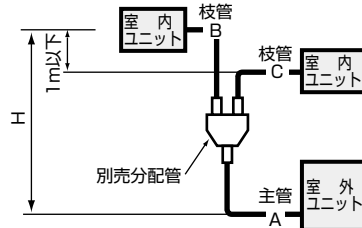
(1) 室外ユニットのストップバルブは全閉(工場出荷仕様)のままとし、冷媒配管全てを接続後、室外ユニットのストップバルブのサービスポート口から真空引きを行ってください。

(2) 上記作業完了後、室外ユニットのストップバルブの弁棒を全開にすることにより、冷媒回路がつながります。

ストップバルブの取扱いは、室外ユニット側に表示してあります。

- (お願い) ● フレアシート面には、必ず冷凍機油を塗布してください。  
 ネジ部には塗布しないでください。(フレアナットがゆるみ易くなります)  
 ● 配管接続は、必ずダブルスパナにて行ってください。

- 室内側の配管接続部は、付属の断熱材により確実に断熱してください。  
 ● 配管接続後に、必ずガス洩れをチェックしてください。  
 ● 配管のロウ付は、必ず無酸化ロウ付にて行ってください。



● 配管サイズ

	能力形名	液管	ガス管
室内	40~63形	$\phi 6.35$	$\phi 12.70$
	71~160形	$\phi 9.52$	$\phi 15.88$
室外	80~160形	$\phi 9.52$	$\phi 15.88$
	224形	$\phi 9.52$	$\phi 25.40$
	280形	$\phi 12.70$	$\phi 25.40$

## 2. 同時トリプルシステム 冷媒配管制限

■ 室外ユニットにより、冷媒配管長さ・ベンド数・室内ユニットの高低差の制限が異なりますのでご注意ください。

〈スリムZR・スリムERの場合〉

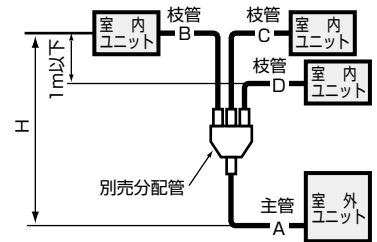
室外ユニット	許容配管長合計 A+B+C+D	A+B又は A+C又は A+D	チャージレス配管長 A+B+C+D	B-C   又は B-D   又は C-D	ベンド数	室内外ユニット の高低差H
PUZ-ZRP160形・PUZ-ERP160形	75m以下(注1)	75m以下(注1)	30m以下	8m以下	15以内	30m以下
PUZ-ERP224形	100m以下(注2)	100m以下 (注2)				
PUZ-ERP280形						
PUZ-ZRP224形	120m以下(注2)	100m以下 (注2)				
PUZ-ZRP280形						

〈スリムSRの場合〉

室外ユニット	許容配管長合計 A+B+C+D	A+B又は A+C又は A+D	チャージレス配管長 A+B+C+D	B-C   又は B-D   又は C-D	ベンド数	室内外ユニット の高低差H
PUZ-SRP160形	50m以下	50m以下	20m以下	8m以下	15以内	30m以下

(注1) 既設配管を洗浄レスで利用する場合には50m以下。(注2) 既設配管を洗浄レスで利用する場合には70m以下。

\* 冷媒追加チャージは、室外ユニット内部の低圧側配管に接続されたチェックバルブを使用してください。



● 配管サイズ

	能力形名	液管	ガス管
室内	40~63形	φ 6.35	φ 12.70
	71~160形	φ 9.52	φ 15.88
室外	80~160形	φ 9.52	φ 15.88
	224形	φ 9.52	φ 25.40
	280形	φ 12.70	φ 25.40

### 1. 配管長さに応じて下記冷媒量を追加チャージしてください。

〈スリムZR・スリムERの場合〉

室外ユニット	A+B+C+D 冷媒追加チャージ量 (kg)						
	30m以下	31~40m以下	41~50m以下	51~60m以下	61~70m以下	71~75m以下	76~100m以下
PUZ-ZRP160形・PUZ-ERP160形		0.6kg	1.2kg	1.8kg	2.4kg		
PUZ-ERP224形	追加充填 不要	0.9kg	1.8kg	2.7kg	3.6kg	追加充填量 を下式にて算出	
PUZ-ERP280形		1.1kg	2.2kg	3.3kg	4.4kg		
PUZ-ZRP224形		0.9kg	1.8kg	2.7kg	3.6kg		
PUZ-ZRP280形		1.1kg	2.2kg	3.3kg	4.4kg		

〈スリムSRの場合〉

室外ユニット	A+B+C+D 冷媒追加チャージ量 (kg)						
	20m以下	21~30m以下	31~40m以下	41~50m以下	51~60m以下	61~70m以下	71~75m以下
PUZ-SRP160形	追加充填 不要	0.6kg	1.2kg	1.8kg			

室外ユニットがスリムZRまたはスリムERの224形・280形で総配管長が70mを超える場合は、以下の要領で追加充填量を算出してください。但し算出した追加充填量が「70m時追加チャージ量」より少なくなる場合は、「70m時追加チャージ量」を追加充填してください。

$$\begin{array}{|c|} \hline \text{追加充填量} \\ \hline \text{(kg)} \\ \hline \end{array} = \begin{array}{|c|} \hline \text{主管：液管サイズ} \\ \hline \text{φ12.7の総長} \times 0.11 \\ \hline \end{array} + \begin{array}{|c|} \hline \text{主管：液管サイズ} \\ \hline \text{φ9.52の総長} \times 0.09 \text{ (ガス管φ25.4)} \\ \hline \end{array} + \begin{array}{|c|} \hline \text{枝管：液管サイズ} \\ \hline \text{φ9.52の総長} \times 0.06 \text{ (ガス管φ15.88)} \\ \hline \end{array} + \begin{array}{|c|} \hline \text{枝管：液管サイズ} \\ \hline \text{φ6.35の総長} \times 0.02 \\ \hline \end{array} - 3.6 \text{ (kg)}$$

〈例〉 室外ユニット : 224形主管 (液管) A : φ9.52...30m  
 室内ユニット1 : 80形枝管 (液管) B : φ9.52...20m  
 室内ユニット2 : 80形枝管 (液管) C : φ9.52...20m  
 室内ユニット3 : 80形枝管 (液管) D : φ9.52...20m

70m時追加チャージ量	PUZ-ZRP224形・PUZ-ERP224形	3.6kg
	PUZ-ZRP280形・PUZ-ERP280形	4.4kg

主管 (液管) φ9.52はA=30m 枝管 (液管) φ9.52はB+C+D=60m  
 従って追加充填量=30×0.09+60×0.06-3.6=2.7 (kg) (端数切上げ)

2. ベンド数は、〈A+B〉、〈A+C〉、〈A+D〉の間で8ヶ所以内、総数で15ヶ所以内としてください。

3. 室内外ユニットの高低差は、室内ユニットが室外ユニットに対し上でも下でも同じです。

- 室外ユニットのストップバルブは全閉 (工場出荷仕様) のままとし、冷媒配管全てを接続後、室外ユニットのストップバルブのサービスポートから真空引きを行ってください。
- 上記作業完了後、室外ユニットのストップバルブの弁棒を全開にすることにより、冷媒回路が繋がります。ストップバルブの取扱いは、室外ユニット側に表示してあります。

(お願い) ● フレアシート面には、必ず冷凍機油を塗布してください。

ネジ部には塗布しないでください。(フレアナットがゆるみ易くなります)

● 配管接続は、必ずダブルスパナにて行ってください。

● 室内側の配管接続部は、付属の断熱材により確実に断熱してください。

● 配管接続後に、必ずガス洩れをチェックしてください。

● 配管のロウ付は、必ず無酸化ロウ付にて行ってください。

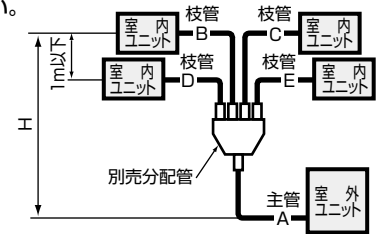
### 3. 同時フォーシステム 冷媒配管制限

■室外ユニットにより、冷媒配管長さ・バンド数・室内ユニットの高低差の制限が異なりますのでご注意ください。

室外ユニット	許容配管長合計 A+B+C+D+E	A+B又はA+C 又は A+D又はA+E	チャージレス配管長 A+B+C+D+E	B-C   又は   B-D   又は   B-E   又は   C-D   又は   C-E   又は   D-E	バンド数	室内外ユニット の高低差H
PUZ-ERP224形	100m以下 (注1)	100m以下 (注1)	30m以下	8m以下	15以内	30m以下
PUZ-ERP280形						
PUZ-ZRP224形						
PUZ-ZRP280形						

(注1) 既設配管を洗浄レスで利用する場合には70m以下。

※冷媒追加チャージは、室外ユニット内部の低圧側配管に接続されたチェックバルブを使用してください。



#### 1. 配管長さに応じて下記冷媒量を追加チャージしてください。

室外ユニット	A+B+C+D+E 冷媒追加チャージ量 (kg)						
	30m以下	31~40m以下	41~50m以下	51~60m以下	61~70m以下	71~100m以下	101~120m以下
PUZ-ERP224形	追加充填 不要	0.9kg	1.8kg	2.7kg	3.6kg	追加充填量を 下式にて算出	
PUZ-ERP280形		1.1kg	2.2kg	3.3kg	4.4kg		
PUZ-ZRP224形		0.9kg	1.8kg	2.7kg	3.6kg		
PUZ-ZRP280形		1.1kg	2.2kg	3.3kg	4.4kg		

#### ●配管サイズ

	能力形名	液管	ガス管
室内	40~63形	φ 6.35	φ 12.70
	71~160形	φ 9.52	φ 15.88
室外	80~160形	φ 9.52	φ 15.88
	224形	φ 9.52	φ 25.40
	280形	φ 12.70	φ 25.40

室外ユニットがスリムZRまたはスリムERの224形・280形で総配管長が70mを超える場合は、以下の要領で追加充填量を算出してください。但し算出した追加充填量が「70m時追加チャージ量」より少なくなる場合は、「70m時追加チャージ量」を追加充填してください。

追加充填量 (kg)	=	$\frac{\text{主管: 液管サイズ } \phi 12.7 \text{ の総長} \times 0.11}{(\text{m}) \times 0.11 (\text{kg/m})}$	+	$\frac{\text{主管: 液管サイズ } \phi 9.52 \text{ の総長} \times 0.09 (\text{ガス管 } \phi 25.4)}{(\text{m}) \times 0.09 (\text{kg/m})}$	+	$\frac{\text{枝管: 液管サイズ } \phi 9.52 \text{ の総長} \times 0.06 (\text{ガス管 } \phi 15.88)}{(\text{m}) \times 0.06 (\text{kg/m})}$	+	$\frac{\text{枝管: 液管サイズ } \phi 6.35 \text{ の総長} \times 0.02}{(\text{m}) \times 0.02 (\text{kg/m})}$	-	3.6 (kg)
------------	---	--	---	--	---	---	---	--	---	----------

(例) 室外ユニット : 280形 主管 (液管) A : φ 12.7...30m  
 室内ユニット1 : 71形 枝管 (液管) B : φ 9.52...25m  
 室内ユニット2 : 71形 枝管 (液管) C : φ 9.52...20m  
 室内ユニット3 : 71形 枝管 (液管) D : φ 9.52...25m  
 室内ユニット4 : 71形 枝管 (液管) E : φ 9.52...20m  
 主管 (液管) φ 12.7はA=30m 枝管 (液管) φ 9.52はB+C+D+E=90m  
 従って追加充填量=30×0.11+90×0.06-3.6=5.1 (kg) (端数切上げ)

70m時追加チャージ量	PUZ-ZRP224形・PUZ-ERP224形	3.6kg
	PUZ-ZRP280形・PUZ-ERP280形	4.4kg

#### 2. バンド数は、〈A+B〉、〈A+C〉、〈A+D〉、〈A+E〉の間で8ヶ所以内、総数で15ヶ所以内としてください。

#### 3. 室内外ユニットの高低差は、室内ユニットが室外ユニットに対し上でも下でも同じです。

- 室外ユニットのストップバルブは全閉 (工場出荷仕様) のままとし、冷媒配管全てを接続後、室外ユニットのストップバルブのサービスポート口から真空引きを行ってください。
- 上記作業完了後、室外ユニットのストップバルブの弁棒を全開にすることにより、冷媒回路がつながります。ストップバルブの取扱いは、室外ユニット側に表示してあります。

(お願い) ●フレアシート面には、必ず冷媒機油を塗布してください。

ネジ部には塗布しないでください。(フレアナットがゆるみ易くなります)

●配管接続は、必ずダブルスパナにて行ってください。

●室内側の配管接続部は、付属の断熱材により確実に断熱してください。

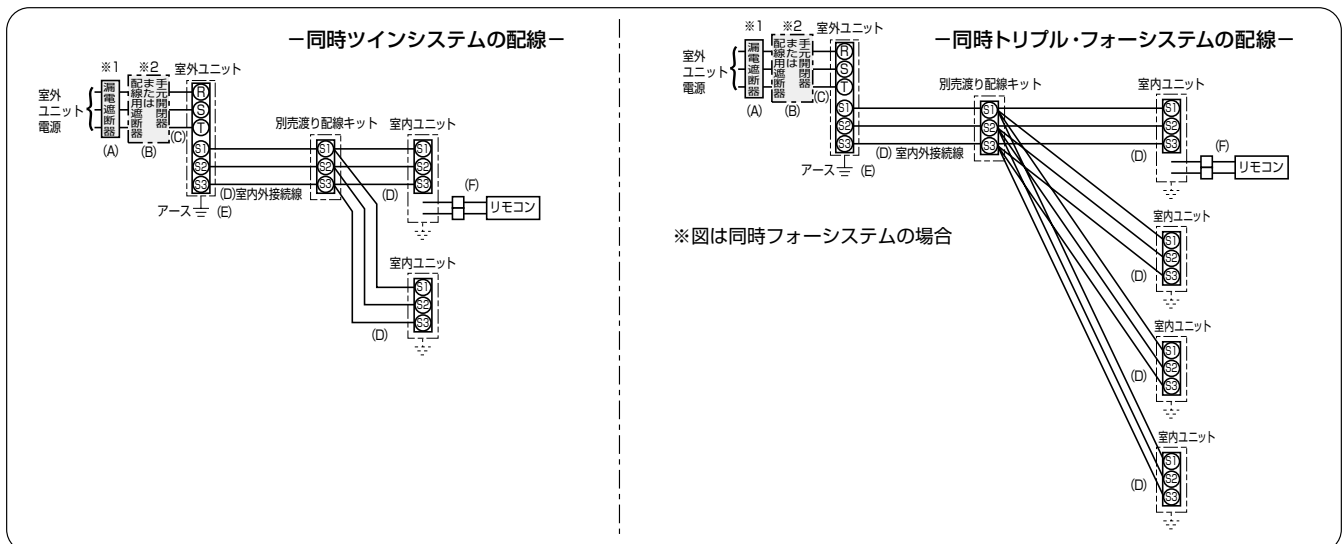
●配管接続後に、必ずガス洩れをチェックしてください。

●配管のロウ付は、必ず無酸化ロウ付にて行ってください。

### 4. 同時ツイン・トリプル・フォーシステム 電気配線

#### ●電源重畳方式

■電源配線は、分岐開閉器、室内、室外の配線パターンとして下記の方法があります。事前に電力会社にご相談の上、その指示に合った配線をしてください。配線にあたっては、「電気設備に関する技術基準」及び「内線規程」に従ってください。



※1 電源には必ず漏電遮断器を取付けてください。

漏電遮断器は、インバーター回路用遮断器 (三菱電機製NV-Cシリーズまたは、その同等品) を選定してください。

※2 漏電遮断器が地絡保護専用の場合には、漏電遮断器と直列に手元開閉器 (開閉器+B種ヒューズ) または、配線用遮断器が必要となります。

## 4. 同時ツイン・トリプル・フォーシステム 電気配線(つづき)

### ■同時ツイン・トリプル・フォー共通項目

ユニット電源配線

記号 機種	(A)	(B)		(C)	(D)		(E)	
	漏電遮断器 定格電流	手元開閉器 開閉器容量 B種ヒューズ		配線用遮断器 定格電流	ユニット電源線 太さ (mm)	内外接続線太さ (mm)		アース線 太さ (mm)
						総延長50m以下	総延長80m以下	
PUZ-ZRP80形・PUZ-ERP80形・PU-CRP80形	20A	30A	20A	20A	3.5mm <sup>2</sup> (φ2.0)	φ1.6(2.0mm <sup>2</sup> )	φ2.0	φ1.6
PUZ-ZRP80S形・PUZ-ERP80S形・PU-CRP80S形	30A	30A	30A	30A	3.5mm <sup>2</sup> (φ2.0)	φ1.6(2.0mm <sup>2</sup> )	φ2.0	φ1.6
PUZ-SRP80S形	30A	30A	30A	30A	5.5mm <sup>2</sup> (φ2.6)	φ1.6(2.0mm <sup>2</sup> )	φ2.0	φ1.6
PUZ-SRP80・SRP112形	20A	30A	20A	20A	3.5mm <sup>2</sup> (φ2.0)	φ1.6(2.0mm <sup>2</sup> )	φ2.0	φ1.6
PUZ-ZRP112形	30A	30A	30A	30A	5.5mm <sup>2</sup> (φ2.6)	φ1.6(2.0mm <sup>2</sup> )	φ2.0	φ1.6
PUZ-ERP112形・PU-CRP112形	30A	30A	30A	30A	3.5mm <sup>2</sup> (φ2.0)	φ1.6(2.0mm <sup>2</sup> )	φ2.0	φ1.6
PUZ-ZRP140形・SRP140形・PU-CRP140形	30A	30A	30A	30A	5.5mm <sup>2</sup> (φ2.6)	φ1.6(2.0mm <sup>2</sup> )	φ2.0	φ1.6
PUZ-SRP140形・SRP160形	30A	30A	30A	30A	5.5mm <sup>2</sup> (φ2.6)	φ1.6(2.0mm <sup>2</sup> )	φ2.0	φ1.6
PUZ-ZRP160形・PUZ-ERP160形・PU-CRP160形	30A	30A	30A	30A	5.5mm <sup>2</sup> (φ2.6)	φ1.6(2.0mm <sup>2</sup> )	φ2.0	φ1.6
PUZ-ZRP224形・PUZ-ERP224形	40A	60A	40A	40A	8.0mm <sup>2</sup>	φ2.0(3.5mm <sup>2</sup> )	φ2.6	φ2.0
PUZ-ZRP280形・PUZ-ERP280形	50A	60A	50A	50A	14.0mm <sup>2</sup>	φ2.0(3.5mm <sup>2</sup> )	φ2.6	φ2.0
PUZ-HRP80・HRP112形	30A	30A	30A	30A	5.5mm <sup>2</sup> (φ2.6)	φ1.6(2.0mm <sup>2</sup> )	φ2.0	φ1.6
PUZ-HRP140・HRP160形	40A	60A	40A	40A	5.5mm <sup>2</sup> (φ2.6)	φ1.6(2.0mm <sup>2</sup> )	φ2.0	φ2.0

リモコン配線

記号	(F)
機種	リモコン線太さ
全機種共通	0.3mmのケーブル



**注意**

正しい容量のブレーカー(漏電遮断器・手元開閉器(開閉器+B種ヒューズ)・配線用遮断器)を使用する。

●大きな容量のブレーカーを使用すると、故障や火災の原因になります。

### 確認事項

1.漏電遮断器は下記仕様品または、同等品を選定ください。

NVは三菱電機製品の形名です

定格電流	15A	20A	30A	40A	50A	60A
漏電遮断器形名	NV30-Cシリーズ	NV30-Cシリーズ	NV30-Cシリーズ	NV50-Cシリーズ	NV50-Cシリーズ	NV60-Cシリーズ
定格感度電流	30mA	30mA	30mA	30mA	100mA	100mA
動作時間	0.1s以内	0.1s以内	0.1s以内	0.1s以内	0.1s以内	0.1s以内

2.電線(C)の太さは、20mまでの電圧降下を見込んで選定してありますので、20mを超える場合は、電圧降下を考慮して「内線規程」等に従い、お選びください。

3.室内外接続線(D)は、室外-室内間の配線、室内-室内間の渡り配線を含めた総延長は最大80mまで延長できます。

室内外接続線(D)は、VVF平形ケーブル(3芯)を使用し、芯線の並び順に室内外ユニット端子盤S1、S2、S3へ接続してください。(S2端子への接続の芯線はVVF平形ケーブルの真中の芯線となるように接続してください。)

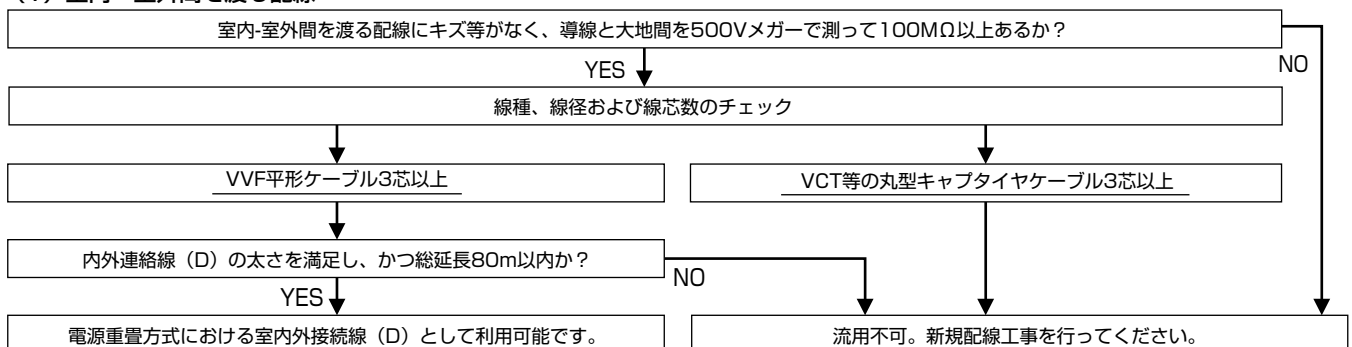
※VCT等キャプタイヤケーブルの既設配線を流用することはできません。必ずVVF平形ケーブルを使用してください。

4.漏電遮断器は、取付け位置等により、始動電流の影響で誤動作することがありますので、選定及び設置に関しては、ご注意ください。

## 5. 電気配線工事(既設配線を利用する場合)

■配線リプレース(既設配線の利用)を行う際には、現場の状況をご確認の上、下記の手順で配線の選定を行ってください。

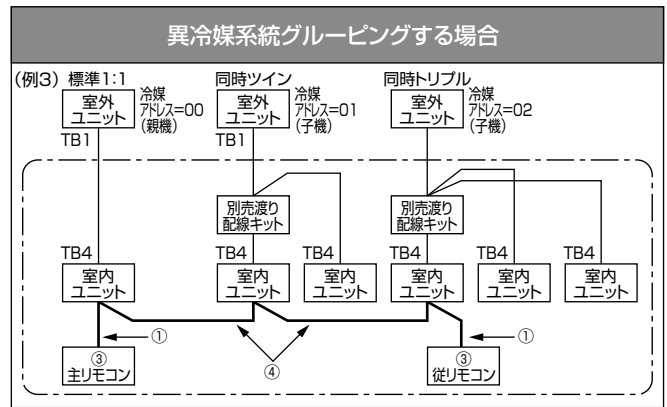
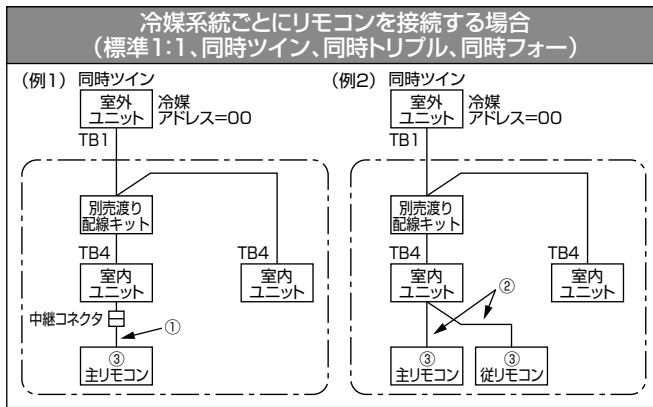
### (1) 室内-室外間を渡る配線





# 6. システムコントロール

■**伝送線配線** リモコンの配線はシステム構成によって異なりますので、以下の例に従って行ってください。



※冷媒アドレスの設定は、室外ユニットのデッブSWにて行います。  
(詳細は室外ユニットの据付工事説明書をご覧ください。)  
※図中の①、②、③、④の番号は、下記①、②、③、④の注意事項に対応しています。

### ① リモコンからの配線1

●室内ユニットから出ているリモコン配線の中継コネクタ部へ同梱のリモコン配線(5m)を接続します(本機には端子盤TB5はありません)。

### ② リモコンからの配線2

●同一室内ユニットにリモコン配線を2本以上接続する場合、ユニット側にあるリモコン配線の中継コネクタ部を切断し、現地リモコン配線と接続して下さい。(本機には端子盤TB5はありません)。現地リモコン配線との接続には圧着スリーブ(現地手配)を使用して、圧着接続して下さい。接続部は各線を絶縁テープにて確実に絶縁して下さい。  
●同時マルチタイプの場合には、いずれか1台の室内ユニットにのみリモコンを接続して下さい。異なる機種種の室内ユニットが混在する場合は、各室内ユニットが持つ全ての機能(風速、ペーン、ルーバー等)を操作することができます。

### ③ 1グループに2台までリモコンが接続できます。

●1グループにリモコンを2台接続した場合、主リモコンと従リモコンの設定を必ず行ってください。リモコン主従設定方法は、リモコンの据付工事説明書(設定編)をご覧ください。  
※1グループのリモコンが1台であれば、主リモコン設定(初期設定)から変更は不要です。

### ④ 異冷媒システムでグルーピングする場合

●リモコン配線によりグルーピングを行います。グルーピングする各冷媒システムの任意の室内ユニット1台とリモコン線にて渡り配線してください。  
●同一グループ内にて異なる機種種の室内ユニットが混在する場合、必ず機能(風速、ペーン、ルーバー等)の多い室内ユニットが接続されている室外ユニットを親機(冷媒アドレス=00)としてください。  
●この場合、「」で囲まれた全室内ユニットを1グループとして制御します。  
●MAリモコンでは最大16冷媒システムを1グループとして制御可能です。  
●パワーシェア運転・スマートデフロスト運転を採用する場合は最大4冷媒までです。機能の詳細は室内ユニット取扱説明書をご覧ください。  
※リモコンからの配線は上記①②③の条件を満たしてください。

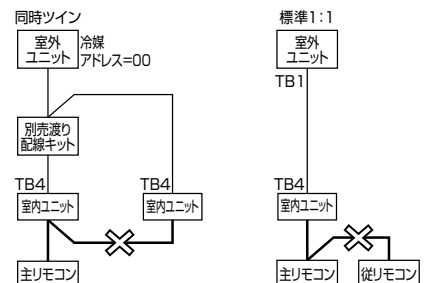
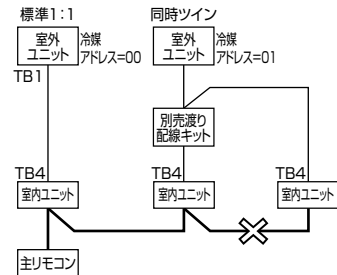
■**リモコンコードの総延長は500mです。ただし、リモコン2台を接続(例2)、(例3)でご使用の場合は200m以下にしてください。**

●0.3mmの電線または2芯ケーブルを使用してください。(現地手配)  
●誤動作する場合がありますので、多芯ケーブル及びシールドケーブルの使用は避けてください。  
●リモコンコードはアース(建物の鉄骨部分または金属等)及び電源配線・室内外接続線からできるだけ離して施工してください。

記号	名称
TB1	端子盤(室外:電源及び内外接続線)
TB4	端子盤(室内:内外接続線)

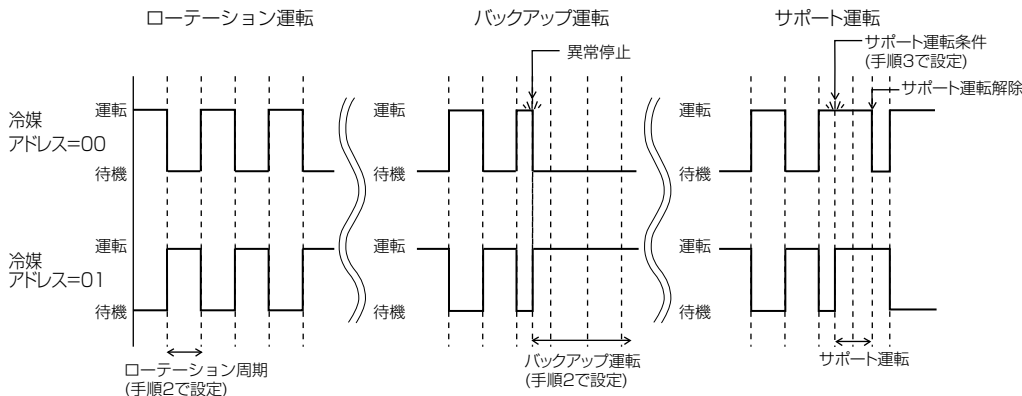
### 確認

●同一冷媒システムのリモコン配線の渡りは禁止です。渡り配線した場合、システムが正常に動作しません。  
●リモコン同士での渡り配線は禁止です。リモコンの端子盤には配線は、1本しか接続できません。

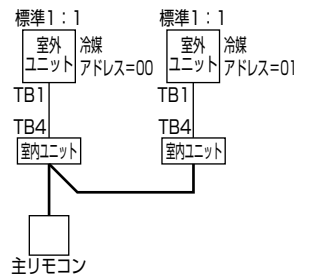


## ■ローテーション設定

- MAスマートリモコンにより右図のような2冷媒系統の標準1:1システムに限り、ローテーション運転やバックアップ運転の設定が可能です。
- ローテーション運転は、各冷媒系統を交互運転させ、運転時間の均一化を図ることができます。
- バックアップ運転は、1冷媒系統が異常停止した場合でも待機中の冷媒系統が起動し、空調を継続することができます。
- サポート運転(パワフルツイン冷房)は、1冷媒系統では能力が不足する場合に、自動的に待機中の冷媒系統が起動し、補助運転を行います。



### ローテーション設定を行う場合

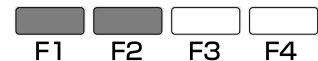
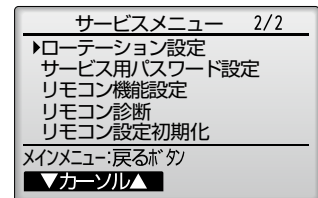


- ※ リモコンを2台接続する場合は、リモコンの主従設定を行ってください。
- ※ 設定は主リモコンからのみ可能です。

## ① 設定手順

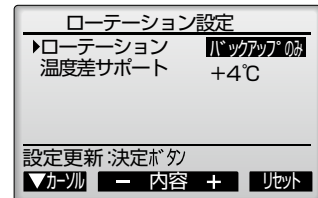
### 【手順1】リモコンを『ローテーション設定』に切換えます。

- サービスメニュー画面で『ローテーション設定』を選択し、**決定** ボタンを押します。



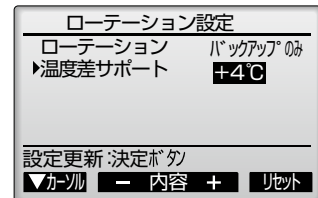
### 【手順2】ローテーション運転を設定します。

- **F1** ボタンで「ローテーション」を選択します。
- **F2**、**F3** ボタンでローテーション周期またはバックアップを選択します。  
 選択項目: 無し、1日、3日、5日、7日、14日、28日、バックアップのみ  
 ※ 1日~28日を選択した場合は、バックアップ機能も有効となります。  
 ※ 「バックアップのみ」を選択した場合は、冷媒アドレス=00系統がメインとして運転し、冷媒アドレス=01系統がバックアップとして待機状態となり、ローテーション運転されません。



### 【手順3】サポート運転を設定します。

- **F1** ボタンで「温度差サポート」を選択します。
- **F2**、**F3** ボタンでサポート運転が動作する「吸込み温度と設定温度の差」を選択します。  
 選択項目: 無し、+4°C、+6°C、+8°C  
 ※ サポート運転は冷房設定時のみ有効です。(暖房、ドライ、自動設定時は動作しません。)  
 ※ サポート運転はローテーション設定で「無し」以外に設定した場合に有効になります。



### 【手順4】設定更新

- **決定** ボタンを押し、設定を更新します。

## ② リセット方法

- **F4** ボタンでローテーション運転時間がリセットされ、冷媒アドレス=00の系統からの運転となります。  
 ※ 冷媒アドレス=01の系統がバックアップ運転中の場合は、冷媒アドレス=00が運転に戻ります。



